

柳營日記記

寛文九年

四月

朔日

銀百枚 湯治 御暇 右江之 上使
知恩院御門跡
吉良上野介

右三人當酉年より為新加被遣之

轉法輪三位中將

堀川侍從

右三人御番勤候付方領百石被遣之也

一勅答被仰出付已刻白書院 出御

御太刀本多土佐守御刀大久保出羽守

勅 飛鳥井前大納言 法皇使東園中納言本院使高倉前中納言新

院使平松宰相

右何れも 御前へ罷出 勅答被仰出之

白銀二百枚 御簾様々 鷹司中務大輔 入江三河守

白銀十枚 飛鳥井 今大路出羽守 松本法眼 谷 大進

白銀百枚 同断 正親町 安田宮内 安田右京 木村内記

白銀十枚 同断 高倉 宇野主馬 栗津式部 木村筑後

白銀百枚 同断 平松 豊田志摩 豊田伊織 鈴鹿將監

白銀五十枚 同断 石井右衛門佐小袖二ツ岡本内藏助 給鹿將監

二日

無記事

三日

已下刻西丸渡御御供

御馬被為 召御番乘馬上覽武田越前守

大久保山城守組罷出

永井伊賀守
板倉筑後守
松平民部少
小出甚左衛門

御留守居

土井能登守
松平因幡守

一 勅使院使今朝當地発足付御馳走人

水野中務少

金森飛騨守

加藤織部正

右之者登 城謁老中退去也

一 水野民部江為振舞老中被罷越依之九ツ時前退出

但馬守月番土井能登守永井伊賀守御成付

不相越

一 於山里御馬上覽御膳被召上申刻 還御

一 勅使院使為帰路今朝當地発足

一 御書付出ル日留有之

四日

於評定所式日寄合稲葉美濃守出座

覚

三日に出 公儀書物不致之不受不施之日蓮宗寺請に取

不受不施之日蓮 へから寸町中五人組切立合相改之借家店借借地之

之應以覚書脚旗 者其地主より改之無紛様且那寺と引合吟味仕

本中御代官 寺證状可取事

筋々御觸有 西四月

一 伊達遠江守依參勤為上使安藤對馬守被差遣之

一 茶屋小次郎御暇付時服二被下之

五日

已下刻黒書院 出御參勤之御禮

御臺様へ 銀五拾枚

銀五拾枚 伊達遠江守

金馬代綿百把 佐竹左京大夫

金馬代拾十 中川佐渡守

同断 有馬左門佐

銀馬代 加藤出羽守

銀馬代 山内右京大夫

同断 九鬼長門守

同断 木下淡路守

同断

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

銀馬代

木下右衛門大夫

細川丹後守

織田豊前守

久留嶋信濃守

青木甲斐守

谷 出羽守

遠山信濃守

松平久米之介

九鬼内匠

右御目見 入御

一 紀伊中納言殿帰国道中以宿次老中奉書遣之

六日

無異事

七日

也

右水痘已後為御禮登 城於御座之間御對顔

也

一 松平相模守參府 上使大和守

八日

來十七日日光山御名代

吉良上野介

秋元撰津守

水野監物

御祭礼奉行

廿日

御名代

但監物御祭礼警衛も被仰付

右之通被仰付之

九日

尾張殿御國元より為御土産尾州打之小刀拾五

本献上

營中

無別条

十日

已下刻黒書院 出御參勤之御礼

- 銀三百枚 御蓋様へ
- 拾式十 銀廿枚
- 金馬代 同 銀五枚
- 銀百把
- 銀馬代
- 羽折三
- 銀馬代
- 縮緬廿卷
- 羽折三
- 同断
- 拾式
- 泥障式懸
- 太刀
- 金式杖
- 備前雲重御小脇差
- 代金六枚
- 箱香
- 繼目
- 与五郎子
- 中嶋与左衛門
- 平野榎平
- 平野丹波守
- 金森左京
- 土方備中守
- 市橋下総守
- 五嶋淡路守
- 小出信濃守
- 秋月佐渡守
- 松平但馬守
- 松平相模守

右御目見畢 入御也

- 御暇
- 金五枚時服三 宛 築田隠岐守 中川飛驒守 小笠原丹後守
- 羽折

十一日

- 一 淀宮津 江柘麻平右衛門 龜山 江柘麻井庄之助 閑宿 江柘麻田八郎左衛門 右之
- 面々 御黒印 下知状渡之傳馬御朱印被下但宮津 奉書
- 計也

十二日

- 於評定所式日寄合大和守出座也
- 一日光御門跡近日登山 上使畠山下總守を以御菓子被遣之
- 一 松平越後守依參勤 上使土屋但馬守
- 一日光御名代御祭礼奉行之御暇被下

十三日

- 一 松平賀守松平大膳大夫參府 上使土屋但馬守
- 一 市口伊豫御暇 付時服二被下之

十四日

- 一 松平越後守家岡嶋老岐林内藏助松平加賀守家老前田
- 對馬守奥村内匠各捧進物御礼

十五日

- 一 高木四郎左衛門同新兵衛各以箱着參府 御目見
- 一 松平安藝守參勤 上使美濃守被遣之
- 一 森内記同断 上使大和守被遣之
- 銀式百枚 御蓋様へ
- 銀三百把 參勤
- 銀五百枚 松平越後守
- 銀二百把 松平加賀守
- 拾五十 松平出雲守
- 金馬代 松平大膳大夫
- 小袖五 松平飛驒守
- 銀五百枚 桑山三之介
- 羅紗十五間 山田三之助
- 羅紗三十枚 藤懸左門
- 銀五十枚 初見 監物次男
- 銀馬代 桑山三之助
- 柴及廿枚 山田三之助
- 鳥目 藤懸左門
- 銀馬代 能勢源三郎

十五日

- 逕国寺社 京都 本國寺
- 三東一卷 後住之御礼
- 一東一卷 京北野天神
- 一東一卷 松梅院
- 一東一卷 岩本坊
- 一東一卷 木庵禪師
- 一東一卷 鉄牛
- 黒筆線香 伽藍御造営之御礼
- 加茂社人 留野宮内
- 参上御礼 関口民部
- 但馬御代官 近江御代官
- 彦坂九平次 市岡理右衛門
- 右參府之御礼各箱有捧之

御刀 能勢撰津守

- 御太刀目録 銀三百枚 參勤
- 拾十猩猩々緋十間 松平安藝守
- 御太刀目録 銀式百枚 森内記
- 猩猩々緋十間 岩城伊豫守
- 銀馬代 泥障五懸

辰下刻御表

- 出御御二方其外月並御禮
- 御白書院 洛陽四ヶ寺之本寺
- 御礼 淨華院
- 參勤 織田對馬守
- 御次之間 深川 淨心院
- 一東老本

十六日

- 一 森對馬守參府 付御太刀目録銀馬代拾二を獻寸
- 一 當秋大坂御加番被仰付之 一万五千石之役高
- 五万石之役高 戸澤能登守 丹羽式部少輔
- 本高一万式千石 堀市正 前田右近大夫
- 但式部少輔右近大夫在所付以奉書達之

十七日

- 辰下刻紅葉山 御社參御裝束御先にと參
- 一 四足御門之内
- 御先立 掃部頭
- 一 尾張中納言水戸守相殿陪拜
- 一 見沙門堂門跡拜迎
- 井伊掃部頭
- 松平讚岐守
- 雅楽頭
- 豊後守
- 美濃守
- 大和守
- 但馬守

御供

- 土井能登守
- 板倉筑後守
- 戸田作右衛門
- 大澤兵部大輔
- 戸田土佐守
- 石川美作守
- 松平紀伊守

此外御近習之面々

- 御簾 大澤兵部大輔
- 御太刀 戸田土佐守
- 御刀 石川美作守
- 御香 松平紀伊守
- 還御
- 御本丸 松平式部少
- 御留守居 松平美作守
- 常 永井伊賀守
- 御留守居 松平因幡守

右御拝禮相濟即刻

- 右御拝禮相濟即刻
- 辻固 松平下総守神原熊之助小笠原内匠頭水野民部

十八日

- 已下刻御黒書院 出御也

銀千枚 上使美濃守
時服百 松平越前守
銀五百枚 上使大和守
拾五十 佐竹修理大夫
同斷 上使但馬守
細川越中守
銀三百枚 上使土井兵衛頭
立花左近將監
拾式十

右為御暇今朝以上使被遣之則為御禮登 城御目
見於 御前御馬老疋^ツ各拜領但越前守初^御
鷹二居^{雁提} 拜領其外御暇之衆

拾二十 淺野因幡守
銀百枚 津輕越中守
拾十 松平備前守
同十 戸澤能登守
同斷 大坂加番
拾五羽折 大村因幡守
銀五拾枚 相良遠江守
拾十 九鬼式部少輔
羽折 桑山修理亮
同斷 銀五十枚
拾四羽折 一柳山城守

右御目見以後被下之
太刀金馬代 參勤御礼
拾十 銀馬代
拾式 伊達市正
羽折 御暇 酒井玄蕃
拾四 酒井玄蕃

右御目見以後被下之
一石川土佐守參勤病氣^ニ付以使者拾三銀馬代を捧御礼申
上之

十九日 當中無別条

廿日 辰下刻上野御堂^江 御參詣御長袴御先^江
松平讚岐守
井伊掃部頭

雅 樂 頭
豐 後 守
大 和 守
但 馬 守
永井伊賀守
板倉筑後守
松平因幡守
大久保出羽守
松平紀伊守

御供^ニは
御刀
御香
松平紀伊守

右御拜禮在之午后刻 還御
御三人方は御先^江被相越候供奉 兩典還御
以後參詣
一御先立掃部頭
一尾黃門水戸相公 御對顔
一毘門拜迎
一還御左馬頭殿右馬頭殿參詣
一吉良上野介秋元但馬守日光より婦參^ニ付 御目見

廿一日 昨日 還御以後於 御座之間
日光掃
廿日也
吉良上野介
秋元撰津守

已下刻黒書院 出御
拾五十 上使美濃守
拾五十 松平下野守
同 但馬守
松平薩摩守
同 溝口原右衛門
同三十 松平淡路守

右御暇^ニ付今朝被遣為御礼登 城御目見於御前
御馬老疋^ツ 拜領其外御暇之衆
織田山城守
松平彈正少彌
森 美作守
南部大膳大夫
相馬長門守

廿二日 於評定所式日寄合在之土屋但馬守出座
也
松平越前守國元火事付^而
上使 大久保出羽守

越前國福井出火燒失之覺
越前城中不殘但御宮御佛殿無恙侍屋敷三百七
十九軒足輕家百軒町數五十九丁寺數三十七軒
右之通御書付上^ル由也 四月十五日燒失之由也
一八幡之岩本坊加茂社人富野宮内閣目民部御暇^ニ付 拾二宛被下之

右御目見以後被下之
拾六 松平淡路守
同四 中川佐渡守
右婚儀相濟御礼
箱者 松平越中快
右掃治傳
銀馬代 參府
初見
土屋忠次郎
由良信濃守次男
横瀨左門
圖書惣頭
中西内匠
五郎左衛門惣頭
堀田大學
源衛門惣頭
溝口熊之助
左兵衛惣頭
永井八十郎
權十郎惣頭
日根野長七郎
久松惣太郎
久松喜三郎惣頭
御腰物奉行頭

金森飛騨守
嶋津飛騨守
關 備前守
一柳對馬守
有馬周防守
戸川玄蕃
竹中左京
伊東主殿
多羅尾權兵衛
木下内匠
朽木監物
毛利主膳
桑山七十郎
修理亮二男

一 高田御方本院院御方千代姫君御方其外尾張黃門甲府館林兩相公

水戸相公へ以上使御鷹之梅首鷄五充被遣之

一 関宿城引渡相濟付^而彼御日付時田八郎左衛門伊東甚之丞掃

參

一 甲府館林兩相公登城是 上使之御礼也

去十五日松平越前守領国城中不殘其外待屋敷民屋等過半燒失

云々依之為 上使出羽守被遣之但越前守頃日御暇近日起国元云々

廿三日

時服四 京四ヶ之本寺 北野大神別當 松梅院

右御暇^二付被下之

梅首鷄五ツツ 松平越後守 松平加賀守 保科肥後守

井伊掃部頭

右使御使番を以被下之各為御礼登 城但肥後守へ為名代筑前

守登 營

廿四日

増上寺御佛殿為御名代久世大和守參拜也

一 水野監物日光山より帰郷

老免 鈴木柰之助 山高左右衛門

一 今朝毘沙門堂門跡へ上使稲葉美濃守を以京都へ之御暇被遣白銀二百枚時

服十被遣之且家来安田治部卿今小路式部卿小田助之進^江各銀十枚充

被下之

一 巳下刻黒書院 出御 内藤上野介

毘門登 城 御對顔今朝 上使之御礼被謝之且又毘門へ先年拜借

銀百貫目之内拾五貫目上納殘銀今度毘門^江被遣之旨被 仰出之畢

於落縁家来三人奉拜 台顔

廿五日

松平新太郎

右依參勤為上使美濃守被遣之

御暇 那須衆 福原淡路

同 内記

芦野左近

太田原出雲

廿六日 一本院御所へ黄金千両 伽羅一木 女院御所へ白蜜一壺 丁子一箱

右之通御進獻之是中川飛騨守築田隱岐守御暇被下差登せらるる

に付て右兩人^江今日右之御進物渡之

廿六日

井伊掃部頭被為召之登 城御座之間御目見御用

不知也

銀十枚 國目付 窪寺小左衛門

銀拾枚

室田助大夫 多田藤大夫

右州上州甲州遠州論所見分^二被遣候^三付被下之

一 松平相模守 松平安藝守 藤堂大学頭 松平讃守 松平龜千代

右之面々^江御鷹之梅首鷄五充被下之

一 尾張中將水戸次將^江如何例年御鷹之梅首鷄五充被下之

一 松平出羽守參勤為上使大和守被遣之

一 宗對馬守參勤為 上使御奏者番被遣之

廿七日

本院御所^江 女院御所^江

金千両 御伽羅老本 白蜜一壺 丁子一箱

右之通中川飛騨守築田隱岐守御暇^三付罷登^二付^而

被遣之

保科肥後守 同 筑前守

右願之通隱居家督無相違筑前守被下旨被仰出

依之井伊掃部頭登 城也

一 松平大膳大夫 松平對馬守 森内記 松平大和守

伊達遠江守 蜂須賀千松

右^八上使御使番を以御鷹之梅首鷄五充被下之為御礼各登

城

廿八日

如例月御礼有之 入御之節

御刀内藤上野介 黒書院

御蓋^二へ^一 太刀目録 銀三百枚 松平新太郎

御蓋^二へ^一 太刀目録 銀二百枚 松平出羽守

御蓋^二へ^一 銀五枚 宗 對馬守

御蓋^二へ^一 銀五枚 織田信濃守

御蓋^二へ^一 銀馬代 松平伯耆守

御蓋^二へ^一 御馬一疋 北条左京

御蓋^二へ^一 時服三羽折 同 蔭宿城高隱殿守へ

御蓋^二へ^一 御暇^二重出也^一 前月廿八日出る此日^一 歸郷 同 引渡掃部頭

御蓋^二へ^一 金三枚 宇治へ御暇 岡部左近

御蓋^二へ^一 拾式 御數寄屋頭 櫻井宗恩

御蓋^二へ^一 金式拾枚 同 組頭 中川玄甫

御蓋^二へ^一 銀廿枚 同 坊主 宗勺

御目見以後被下候則 入御 萬福寺木菴禪師

御蓋^二へ^一 銀百枚 御暇 鉄 牛

御蓋^二へ^一 時ふく三 於柳之間老中出座被下之

御蓋^二へ^一 一三束二卷參府 多賀 尊勝院 一箱肴 病後 松平周防守

御蓋^二へ^一 一紀黃門紀州到着^二付^一以使者久野丹波守を以御樽者被獻御礼申

御蓋^二へ^一 上之 一紀亞相使者松平九郎左衛門を以黃門御暇被下候御礼被謝之

御蓋^二へ^一 一桑山丹後守勢州へ御暇^二付^一時服四羽折被下之

御蓋^二へ^一 廿九日 一松平飛騨守毛利甲斐守^江御鷹之梅首鷄五充被下之

御蓋^二へ^一 晦日 願之通 水野石見守

御蓋^二へ^一 御役御免 一松平新太郎 松平出羽守 宗對馬守 丹羽左京大夫 有馬中務大輔 佐竹右京

御蓋^二へ^一 大夫 松平信濃守 黒田万千代 立花好雪 御鷹之梅首鷄五充被下之

御蓋^二へ^一 一紀伊兩卿使者御暇久野丹波守へ拾四羽折松平九郎左衛門へ拾

御蓋^二へ^一 三被下之

御蓋^二へ^一 一駿河より初瓜^并茄子差上之如何例年神前佛前へ被備之

柳營日記記

寛文九年

五月

朔日

巳下刻御表^江出御月次御禮

御刀 松平紀伊守 松平越前守

右^著國元之居城不殘其外侍屋敷町屋等焼失之旨

及 高聞就夫五万兩拜借被仰付家老酒井玄蕃

老中被仰渡之為御札越前守登 城謁老中

一 松平若狭守參勤御礼金馬代綿百把差上之

一 御暇被下物

(御馬) 松平伊与守 拾三羽折 伊丹大隅守

一 太刀目録^江松平下野守家司北条權大夫松平安藝守家司淺

之甲斐初見し奉る是^ハ下野守安藝守奉願^ニ付^也

一 箱肴^ヲ知久伊左衛門座光寺勘左衛門小笠原孫右衛門參府

御礼申上之

一 於御座間雅樂頭豊後守梅首鶏五^ヲ大和守但馬守同三尤

被下之

二日

美濃守今日も登 城

大番頭 高木主水正

右^著於二条氣色以之外^ニ付弟同姓善左衛門御暇被

下之差遣旨善左衛門番頭植村志摩守へ能登守

伊豆守傳之主水正板倉内膳正聲也

三日

一 老萬石以上之諸大名より端午之御帷子進上奏者

番請取納也

一 御一門方^ヲ進上之御帷子於柳之間使者謁老中退

去也

一 五萬石以上より御帷子代 御臺様^江進上之御留守

請取納之

永井對馬守

右^著紀州^江為上使可被遣候間用意可成旨老中被 仰

渡

一 江州多賀尊勝院京都本國寺御暇^ニ付^也時服六充被下

一 蓮池馬場へ被為成御馬方乘馬上覽

四日

美濃守今日より登 城

式日寄合相延

五日

辰下刻黒書院^江 出御上段着御御長袴左典厩右

御刀

典厩 御對顔酒井河内守披露之右家老衆一同御

礼終^也 白書院出御御着座

尾張黃門

水戸相公

尾張羽林

水戸次將

松平讚岐守

保科筑前守

松平右京大夫

松平左兵衛督

右御目見但^欠讚岐守^ニハ湯治^江御暇被下旨^被仰出右

之外此席^ニ申上諸番頭諸物頭役人等一同御目見

大廣間

松平加賀守

松平越後守

松平新太郎

松平相模守

松平左京大夫

松平出雲守

松平大膳大夫

森 内記

松平刑部大輔

松平播磨守

松平但馬守

宗 對馬守

松平出羽守

松平修理大夫

松平下総守

松平大和守

佐竹右京大夫

藤堂和泉守

松平土佐守

織田内記

松平飛騨守

毛利甲斐守

松平兵部大輔

松平信濃守

有馬中務大輔

松平大藏大輔

蜂須賀牛松

黒田萬千代

内藤帶刀

松平若狭守

藤堂大學頭

松平對馬守

丹羽左京大夫

酒井左衛門尉

右四人^ハ煩^ニ付無登 城

一 芝上野之 御堂へ蒸竹被獻之

一 稲葉美濃守梅首鶏三拝領之是先日病氣^ニ付無出仕延

引及今日

六日

一 評定所寄合有之大和守出座是四日延引及今日也

一 酒井河内守松平美作守於御前御鷹之梅首鶏三充拝領之

七日

無足之面々御切米被下之

御書院番
青山丹後守組

高木惣十郎

掛斐彦右衛門

能勢八郎右衛門

曾根孫兵衛

鶴殿藤兵衛

津輕伊左衛門

右者當秋駿府在番二付新規三百俵ツ被下之但鶴

殿藤兵衛は百俵御加増都合三百俵相成候

大御番
酒井伊守組

勝部小三郎

清水三郎右衛門

逸見弥左衛門

都筑次左衛門

伊勢平八郎

原田弥三右衛門

大御番
植村上佐守組

戸田清右衛門

美濃部与一郎

飯室弥兵衛

三宅又十郎

右者同組當秋大坂在番二罷越候二付新規式百俵宛被

下之老中傳達之

大津惣代兩人御暇時服二充被下之

右者祝言明日相濟

八日

一日

一女院御端午之使者長坂新右衛門御暇銀五枚被下之

九日

一日

一日

一日

一日

一日

一日

一日

被仰付十人ふち被下之

十日

左典厩へ為上使但馬守被遣之御用不知

於京都三拾三間堂尾州衆早野勘左衛門去朔日

酉下刻より二日申ノ中刻迄惣矢老萬五百四拾式本

通矢八千仕候園右衛門申候

一於御座間永井對馬守御暇被下之是、紀伊中納言殿

因元へ為 上使被差遣二付二也二た二し

紀伊黃門へ三種二荷被遣之

紀伊亞相へも次二を以て精藏三反丁子染御帷子二御菓種

一箱二金二五百二兩二御肴一種被遣之右御樽香は従大坂支度

有之二上使持參也

御暇拝領物

黄金十枚 永井對馬守

十一日

一日

登城是、紀州へ上使黃門亞相二色々被遣候御札

也謁老中退去也

一彦坂九平次御暇付二時服二被下之

一親世大夫今春大夫喜多八丞二親世今春兩座之役者御暇

二付二通例年之通黄金白銀時服等被下之

一大藏主馬相果候付二跡職地方配當米御扶持方無相違子六

郎兵衛へ被下之六郎兵衛取来御ふち五人扶持は上二

十二日

一日

評定所式日寄合土屋但馬守出座也

已下刻黒書院 出御家督御禮

筑前守家司 真御太刀助氏

田中三郎兵衛 時服二十枚

成瀬主計 時服式

井深茂右衛門 時服四

銀馬代二銀丁子釜式

一柳平左衛門 銀丁子釜式

依病御留京

二条在番婦

祝言相詣御札

御塞様へ

右御礼畢 入御之刻於山吹之間

大御番兩組中

並居一同 御目見 入御

一牧野遠江守湯治婦以箱肴 御目見

一伊達兵部少輔鶴嶋撰津守御暇二付時服十充被下之

一櫻井庄之助村上孫八郎龜山より帰謁

一御座間 保科肥後守隠居之御札帷子單物十金馬代献上之

御臺様へ瓶燭五百挺

一隠居二付二献上物 肥後守より

小脇指 来国光 御茶入 佐助 願書 義経自筆

御臺様へ

堤中納言集 紀實之筆

一松平左近大夫組幸田半左衛門事大坂御弓奉行三輪太郎兵衛跡役

被仰付之

十三日

御天守番頭 山下又介跡

小普請奉行 廣戸半七郎跡

御納戸番頭 河内長介跡

右之通被 仰付老中被傳之

水戸相公家老 中山備前守次男 菊太郎

右願之通可差出旨宰相殿家司岡崎平右衛門

今日殿中へ呼之老中傳之

一水戸宰相殿登 城謁老是家司備前守次男菊太郎可被

召出旨被仰出候御札也

十四日

雨天二付西丸 御成御延引

左典厩内室今朝逝去付二為 上使土屋但馬守被

差遣之是、二条撰政殿御娘也

右同断二付京都女院御所へ為御使三好石見守可

被遣旨老中被傳之

御從馬頭 横山太郎兵衛跡

神尾市右衛門組 松高藤右衛門

御從馬頭 横山太郎兵衛跡

御從馬頭 横山太郎兵衛跡

御從馬頭 横山太郎兵衛跡

御從馬頭 横山太郎兵衛跡

御從馬頭 横山太郎兵衛跡

十五日

例月之諸大名出仕有之雖然左典厩御内室逝去^ニ

御表^江 出御無之出仕之面々於御白書院謁老

中

内記末子

森 仙菊

右 關備前守内々願之通養子被仰付旨老中傳

之

大嶋雲八郎

右 在々所々盜賊可相改之旨被仰付候岡本内藏

允代り也

一 土方備中守酒井兵部八木十三郎事駿府加番被仰付之但兵

部十三郎兩人^者後日雖被 仰付爰に書記之

一 女院御所へ御使三好石見守被遣付^而御座間へ被召出之御直

仰含退去金五枚時服二羽折其外人馬御朱印被下之左

馬頭殿へ内室儀^ニ付^而也

一 御暇被下物

時服三 多田院 同^ニツツ^一 春木大夫 使者
山本大夫

十六日

土屋備前守

八木十三郎

酒井兵部

十五日也

右^ハ駿府加番被仰付

當春安督 又左衛門下
北条右近組

右御書院番被 仰付青山丹後守組^江

一 松平右衛門佐掃部御礼以使者卷物廿一荷二種献上之

一 知恩院御門跡自湯治掃部^參付 上使島山下總守を以御菓

子被遣之

十七日

辰下刻紅葉山御宮 御社參御長袴御先^江掃

部頭雅樂頭豊後守美濃守大和守但馬守老

中不残被相越御供板倉筑後守此外御近習

之面々

御刀 松平内記

御咨 松平紀伊守

右御拝禮畢^而即刻 還御

御三人方^江參上供奉 還御後為伺御機嫌

御三人方より使者被差上

一 水戸宰相殿尾張中將殿陪拜

一 甲府宰相殿へ為上使大久保出羽守を以枝柄一箱被遣之忌中之御尋

也

十八日

中根日向守高木主水正両組中御改

中川御番

一 自日光次飛脚到来昨從七日御祈禱御結願之旨從日門注進

一 松平右衛門佐使者御暇時服三被下之

一 甲府宰相殿^江上使永井伊賀守を以御香奠銀三百枚被遣之

御内室法事^ニ付^而也

十九日

公方様少々御腫物氣^ニ被為在候^ニ付明日之

御成御沙汰無御座候

二九御留守居

松平市郎左衛門

欠

右^者一昨日頓死之由也

一 知恩院御門跡自熱海依掃部以岩波少進修禪寺紙三束被獻

之

廿日

一 楓山 御宮 御參詣^{御延引}上野へ御名代酒井雅樂頭參拜

廿一日

廿一日

甲府相公^江

今朝為上使大和守以御肴一種被遣之是^ハ永々御

精進被成間敷由被仰遣之付^而也

一 夏目傳左衛門先日御天守番頭被 仰付今日組之輩引渡

廿二日

於評定所式日寄合美濃守出座也

大坂御目付掃

甲斐庄喜右衛門
大關勘右衛門

廿三日

金馬代
太總刀百把

參府

本多中務大輔

是^ハ病氣^ニ御札難成^ニ以使者申上候

内藤加兵衛

右為論所見分被遣^ニ付銀十枚被下候是^者先日窪

寺小左衛門被遣處病死^ニ付^而其代り老中傳之

伊奈五兵衛

右被為召所々新田望之輩有之間妻木彦右衛門

相添御用可相勤之由老中被傳之

上州笠掛野下總國椿海武藏野於右之所々新田開免之儀

有望之輩依之彼地為見分妻木彦右衛門伊奈五兵衛被差

遣旨

廿四日

辰下刻紅葉山御佛參御長袴御先^江掃部頭老

中不残相越候御供

土井能登守

永井伊賀守

板倉筑後守

松平民部少

此外御近習之面々

御刀

石川美作守

御咨

右拜禮過^而即刻 還御

一 尾張中納言殿水戸宰相殿与參

掃部頭雅樂頭豊後守美濃守大和守但馬守御先へ參上

御佛殿御作法傳通院相勤増上寺依病氣無參堂

還御後留林殿參詣

一日門へ 上使品川式部大輔を以御菓子被差遣之是昨日自日光

山掃寺^ニ付^而也

一 増上寺方丈^江上使神尾若狹守被遣之是病氣^病付^而也

廿五日

右宮津城引渡掃登 城謁老中

欠 柘植平右衛門

金式枚

同 欠 渡邊孫三郎

同 欠 浅井權十郎

同 欠 川嶋周菴

一 妻木彦右衛門伊奈五兵衛兩人新田之地為見分被遣付_而御

勘定組頭平野次郎左衛門_并御勘定方金丸又三郎設案小左衛門

差添可被遣旨被仰付之

一 川嶋周庵御吹出_二付御業_一兩度差上候_二付金式枚被下之

廿六日

能勢治部左衛門

前田帶刀

右、嶋原御目付掃登 城謁老中退去也

一 吳服師御暇

金老枚 茶屋四郎次郎

銀十枚充 龜屋庄兵衛三嶋吉兵衛 上柳彦十郎 茶屋新

四郎 橋本甚右衛門

一 松平大隅守依參勤 上使稲葉美濃守被遣之

廿七日

無事

欠 松平越後守

右、姪之差合是_者永見市正娘於國元死去也

廿八日

巳后刻黒書院 出御如例御一門方御對願畢_而

白書院 出御如例月諸大名御目見右御礼畢_而

入御

松平新太郎次男

秋月佐渡守惣領 池田信濃

同 右京

右可被召出之間被仰渡候

松平大和守

右、伯父之差合是_者松平越前守家來本多内蔵介

死去

一 申刻二丸_江渡御御膳被召上候酉刻 還御

包袋五充 入江和泉守 橋本越後守 山田大藏卿

右一人充 御目見家領新加之御礼也

御礼巻敷 充 前田治部卿 吉川右近

一 松平越後守使者大谷助六郎を以奉書紙十箱を捧掃固之御礼申上

之且自分之御礼太刀目録を献す

一 三州御代官島山牛之助參府之御礼箱看を献す

一 松平玄蕃頭忌明 御目見箱看を献し奉る

一 松平大隅守家來時服三太刀目録を捧 御目見町田勘ヶ由也

大坂ノ掃參

甲斐庄喜右衛門 宮津ノ掃參 柘植平右衛門

大関勘右衛門

宮津引渡掃參

渡辺孫三郎 嶋原ノ掃參 能勢次左衛門

浅井權十郎 前田帶刀

右四度に出座 御目見

一 近藤助右衛門御代官所へ御暇_二付時服_一二羽折黄金老枚被下之

一 參勤之面々

白銀五百枚 銀々肆十間

太刀目録 和紙五箱

太刀目録 萬蒲皮十枚

本多彦八郎

一 轉法輪前左府大炊御門前右府使者勅修寺門跡使僧御暇_二付時服_一

二 充被下之

一 御臺様へ松平大隅守より綿百把銀五十枚献上之

廿九日

左典厩忌明_二付登 城於御座之間 御對願終_而退

去_非家老太田老岐守嶋田淡路守一同罷出 御目見

大田老岐守

嶋田淡路守

一同に出座 御目見

奉書 時服三

大谷助六郎

右御暇_二付於檜之間老中出座傳之

上野御宮御堂増上寺御佛殿_江初_而真桑瓜同

楊梅被献之

柳營日次記

寛文九年

六月

朔日

如例月御礼有之御白書院 出御_{御刀}三枝對馬守

金馬代 初見

時服五 銀馬代

時服三

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

御刀

松平新太郎一男

池田信濃守

佐渡守惣領

秋月右京

備前守兼子

大蔵

水野金兵衛

大御番 松平慶前守組

鎌田藤兵衛

多田新蔵

御太刀 銀馬代

水谷左京亮

細川豊前守

堀美作守

御太刀 金馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御刀

松平新太郎一男

池田信濃守

佐渡守惣領

秋月右京

備前守兼子

大蔵

水野金兵衛

大御番 松平慶前守組

鎌田藤兵衛

多田新蔵

御太刀 銀馬代

水谷左京亮

細川豊前守

堀美作守

御太刀 金馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

御太刀 銀馬代

●大御番
同部丹波守組
御能組
兼平
定家
道成寺
水室
八之丞
保生大夫
八之丞
櫻川
舍利
現在鶴
保生大夫
八之丞
保生大夫
八之丞
狂言
福の神
うつほ猿
つうめん
三人かたわ
弥右衛門
傳右衛門
弥右衛門
弥右衛門
一水室御能半之時以雅楽頭并吉良上野介緩々見物可致之旨日門へ被
仰造兩典殿へ以雅楽頭美濃守同断被仰造之
一大御番同部丹波守組之大御番多賀三郎儀致書置去頃雖令
逐電三郎四郎事蒙覽之由其開有之付父多賀三郎兵衛可
尋出之旨被 仰付然間去朝日大崎村惠性寺へ罷越令自害然共
三郎四郎事喧嘩惡所 同道人有之由風聞付 召連之草履取
可相尋之節依被 仰出三郎兵衛番頭松平左近大夫 先日老中
申渡儀之處件之草履取去三月暇遣之不在之由也依之右
之請人可存候間可尋出之旨兩町奉行 今日申渡之

〔巴下七日也
但戸澤能登守前田右近
大夫是又大坂番被仰
付能登守 先日御暇
右近大夫 未夕參勤
故無其儀

時服五 大坂 丹羽式部少
時服三 加番御暇 堀 市正
羽折 大坂 酒井伊与守
羽折五 在番御暇 植村土佐守
同 初見 本多甚太郎
銀馬代 本多傳之助
銀馬代 伊右衛門三男
松浦勘助 八右衛門次男
倉橋兵之助 内匠次男
稻葉長左衛門 八
丸毛八左衛門 十
筒井内記 源之丞子
伊澤吉兵衛 三 右近大夫惣領
北条八平 五 左衛門子
石丸十兵衛 十一 玄勝子
内田玄泰 十二
大坂在番大御番組頭
兩組中 八人

彦左衛門子 新見彦四郎 七
平右衛門子 長田孫七郎 八
戸澤能登守
前田右近大夫
右大坂加番 候得共在所に罷在候付御暇無之也
大御番 同部丹波守組
久保田勘兵衛
廣戸半九郎
去頃於傾城町喧嘩いたし多賀三郎四郎 為同道勘
兵衛 岡部丹波守 江御預 半九郎 二条在番 罷
越 付大久保右京亮水野周防守 江御預
七日
一 御暇被下面々
御馬 松平下總守 時服十 水野中務少輔 銀馬代 諏訪因幡守
時服五 松平越中守 時服五 松平玄蕃頭 銀馬代 鳥居兵部少輔
御馬折十 本多下野守 羽折 井伊兵部少輔 銀馬代 土岐山城守
時服三十 松平日向守 羽折 植村右衛門佐
時服十 松平丹波守 同五羽折 丹羽式部少輔
大坂 加番 同四羽折 堀 市正

一 御能初 中楽床机御免之次第無之水室之御能之次第終之時床机
多賀三郎四郎
是去頃於傾城町喧嘩
手負其後立退依之番頭
御穿鑿被仰付父三郎兵衛
へ依断三郎四郎義去
日大崎村惠性寺へ罷越自
害之由喧嘩所惡敷付
其存取御候義可被成旨町
奉行衆 被仰付打手 知
不申

時服五 大坂 丹羽式部少
時服三 加番御暇 堀 市正
羽折 大坂 酒井伊与守
羽折五 在番御暇 植村土佐守
同 初見 本多甚太郎
銀馬代 本多傳之助
銀馬代 伊右衛門三男
松浦勘助 八右衛門次男
倉橋兵之助 内匠次男
稻葉長左衛門 八
丸毛八左衛門 十
筒井内記 源之丞子
伊澤吉兵衛 三 右近大夫惣領
北条八平 五 左衛門子
石丸十兵衛 十一 玄勝子
内田玄泰 十二
大坂在番大御番組頭
兩組中 八人

彦左衛門子 新見彦四郎 七
平右衛門子 長田孫七郎 八
戸澤能登守
前田右近大夫
右大坂加番 候得共在所に罷在候付御暇無之也
大御番 同部丹波守組
久保田勘兵衛
廣戸半九郎
去頃於傾城町喧嘩いたし多賀三郎四郎 為同道勘
兵衛 岡部丹波守 江御預 半九郎 二条在番 罷
越 付大久保右京亮水野周防守 江御預
七日
一 御暇被下面々
御馬 松平下總守 時服十 水野中務少輔 銀馬代 諏訪因幡守
時服五 松平越中守 時服五 松平玄蕃頭 銀馬代 鳥居兵部少輔
御馬折十 本多下野守 羽折 井伊兵部少輔 銀馬代 土岐山城守
時服三十 松平日向守 羽折 植村右衛門佐
時服十 松平丹波守 同五羽折 丹羽式部少輔
大坂 加番 同四羽折 堀 市正

四日
於評定所式日寄合久世大和守出座也
五日
三好石見守
右京都 女院御所へ御使被遣之
城御座之間 御目見
一 惣 出仕諸大名衆煩差合 登 城無之 前日月
番老中 御断可仕旨 今日森川小左衛門 被仰渡候
由

右 於山吹之間 御目見已後被下 兩組中之子共初
御目見
權兵衛子 羽太内記 十
五郎兵衛子 石野彦大夫 九
庄兵衛子 太田萬五郎 十一
助右衛門子 近藤助之進 十二
十左衛門子 蒔田六左衛門 十三
次郎兵衛子 黒澤玄之助 十四
作之丞美子 宇都野刑部左衛門 十六
又左衛門美子 三浦萬五郎 十五
藤右衛門子 向山七之助 十七
助之丞子 太田傳八郎 三
藤四郎子 西尾五郎八 四
權右衛門子 永田權太郎 一
七郎右衛門子 大木孫八郎 六
善右衛門子 飯河新七郎 二
三左衛門子 津田六之助 五

八日
右兩所替被仰付候於御座之間老中被仰出之
一 佐竹修理大夫使者松平下野守使者御暇 付時服三充被下之
一 西丸大手御門番 在所御暇 付代り 被仰付之
本多下野守 内藤帯刀
松平丹波守 松平若狭守

六日
巴下刻西丸 出御供 土井能登守
板倉筑後守
松平因幡守
於西丸御馬 上覽御膳被召上申后刻 還御

一 松平淡路守在所到官御免使客御暇 付時服一紙上之
一 關原丹波守頃久保田勘兵衛事多賀三郎四郎喧嘩
へ 爲同部人由付 御丹波守 被召召官老傳之

本前四万五千五百石 肥前嶋原式万石御加増
本高万七千石 丹州福知山五千石御加増
都合三萬五千石 常陸土浦也
本前四万五千五百石 肥前嶋原式万石御加増
本高万七千石 丹州福知山五千石御加増
都合三萬五千石 常陸土浦也

九日

一 果鶴二充被下之 上使松平内記 # 松平越後守
御前典正 尾黄門正 水相公江
二奉殿使者 女五百御方
一 使者御暇時服二充被下之 中川左京大夫 田中内藏助
一 松平伯善守在所到着^三付以使者二種一荷差上之

十日

如例年御一門方^二端午之御内書出^レ老中被相渡之
使者時服式^{ツツ}或^ハ三^{ツツ}被下於柳之間國持大名衆廿三人
人^并岡本願寺^江御内書出^レ老中被相渡之使者時服
二三過被下候

永井對馬守

先日岡部丹波守へ被召候勅諭兵衛事今日於丹波守宅
切腹被仰付候使市岡五左衛門被遣之

去頃於傾城町多賀三郎四郎連^二喧嘩仕候

右^ハ向後伊賀守と可致宗被仰出候

十一日

一 松平隠岐守参府たりといへとも病氣^ニ付以使者銀百枚狸々
皮十間差上之
一 鷗一^{ツツ} 上使大久保山城守 同仙石因幡守
尾張中將殿 水戸少將殿 松平越後守
同御使役 上使石川安作守 保科肥後守
松平加賀守 鷗二

十二日

於評定所式日寄合土屋但馬守出座

雅 樂 頭
豐 後 守

右於 御前御菓鷹二居拝領 但 鷗一
見鷗一
一 井伊掃部頭へ上使松平内記を以鷗二被下之

十三日

大御番 酒井伊豫守組与頭
新見平介跡江

飯河善右衛門

十四日

巳后刻 黒書院 出御御参勤之御禮也

金馬代 綿百把
同
銀馬代 秋田安房守
銀馬代 小笠原土佐守
銀馬代 本多山城守
銀馬代 前田右近大夫
時服三 松平肥前守
時服三 最上刑部
銀馬代 山崎勘ヶ由
泥降三懸 中山數馬
銀馬代 備前守次男
時服式 御勝手より
初見
上方^ノ
御前守次男

一 所々新田開発之地見分被遣御暇

右 御目見以後被下之

一 酒井越前守湯治掃^二付箱肴を奉獻
銀馬代 初見 内藏允次男
鳥目百匹 細井一学 佐次衛門末男
川嶋周球 一東一卷 下養子
一東一卷 半井卜仙 藤右衛門次男
鳥目 長谷川与左衛門 伊与川上郡御代官
染皮三枚 參上 小嶋孫右衛門
箱肴 長谷川久兵衛 上方御代官

右 御目見畢 入御也
明十五日諸大名衆出仕如例月無之是 明後日嘉

祥^二付^而也

一 松平清兵衛役所へ御暇^ニ付御目見
一 御暇之面々

(時服五) 織田内記 (時服四) 内藤右近大夫 時服四羽折普沼主水
(時服五) 小笠原内匠頭 (時服五) 大間信濃守 同六羽折 藤堂源七郎
(時服十) 本多兵部少輔 (時服五) 三宅能登守 (二種 記置門使者)
(時服十) 内藤豊前守 (時服四) 大田原山城守 御者 同 伊達源左衛門
(時服四) 堀 丹波守 (時服三) 堀 肥前守 大刀目録御禮 渡辺一学

十五日

一月次御札無之 松平對馬守
内々願之通隠居被仰付領國息土佐守^江被仰付旨於御
白書院老中土佐守^江被仰付之 井上河内守

右隠居被仰付知行五万石^并新田被下之
本高 五万石 惣領 井上相模守
新田 弍千石 二男 同 左兵衛
弍千石 三男 同 松之丞

右之通被仰付之

一 紀伊殿使者 渡辺一学 同 四羽折 御暇^ニ付被下之
一 弓氣新兵衛同四郎左衛門御暇各時服^二羽折被下之
十六日
御嘉祥御祝^ニ付巳后刻大廣間 出御御長袴中段
御着座 御刀 松平内記
松平越後守
松平加賀守
松平新太郎
松平大隅守
松平相模守
松平安藝守
松平大膳大夫
森 内記
宗 對馬守
伊達遠江守

松平出羽守
松平修理大夫

右老人^ツ御目見御向御縁通^ニ順々着座則御菓子
如例備御前着座之衆^江御次之間^ニ並置御菓子被^レ

下候給仕進物番 御前^江被召上候時各頂戴過^而着
(口次記は膳ヲ持而)
座膳^待退次出座之面々^{面々}^者

右老人^ツ出座御菓子頂戴之
是を初是より兩人^ツ出座

酒井河内守
松平美作守

松平和泉守

無官高家

御詰衆

詰衆並

御留守居

大目付

町奉行

宮崎若狭守

禁中方衆

堺奉行

奈良町奉行

長崎町奉行

駿河町奉行

大御番頭

御書院番頭

御小姓組番頭
御旗奉行
御留守居番
百人組頭
御鑓奉行
御持弓御持筒頭
三千石以上寄合
新御番頭
御近習面々
御小姓衆
御小納戸
中奥衆
法印法眼
御目付衆
御使番
御作事奉行

御普請奉行
岡田豊前守

杵浦猪右衛門
杵浦内蔵允

伊奈半十郎

御書院番頭

御小姓組頭

御弓御鉄炮頭

田附四郎兵衛

井上左大夫

西丸御留守居

御歩行頭

小十人頭

二丸御留守居

御納戸番頭

御腰物奉行頭

御舟手頭

清水奉行
上水奉行
佐渡奉行
新御番頭
御裏御門番頭
御膳奉行

右之外諸役人諸番衆^并無官醫師御同朋迄出座
御菓子頂戴午后刻終^而入御
膳高千八百九十膳也 内六百五十五膳頂戴
一 藤堂大學頭
酒井左衛門尉
松平隱岐守
松平若狭守
右^者煩^ニ付登 城無之
一 今日御嘉祥首尾好相濟候^ニ付御三人方々使者上^ル
謁老中退去也
(神尾若狭守へ京都より 福知山城
是御惣十郎被差遣同列可被 引渡
御井次郎左衛門へ彼地ニ罷在
可立合旨也 又兵衛溝口孫左衛門 嶋原城引渡)
神尾若狭守
駒井治郎左衛門

銀馬代 病氣付以名代相續
井上松之助
同 河内守

一 上野御宮御堂増上寺御佛殿初焼米被献

一 丹羽左京大夫昨日上使御礼として登 城
一 松平土佐守家老深尾因幡守太刀目録時服三相間兵庫生駒李助^ハ太刀目録を以各拝領 台顔

廿九日

右忌御免登 城

晦日

右被仰付之旨老中傳達之

以使者名越之御被進上之依之午下刻黒書院
出御 御前御頂戴終 即刻 入御也

右^ハ甥差合無登 城也同姓与兵衛弟死去也

一 京都より次飛脚到来^一一条在番廣戸半九郎事去廿五日令切腹之
由板倉内膳正^并番頭御目付より注進之半九郎儀於當地多賀三郎四郎患所^三喧嘩之節依為同道人右之通被仰付之

柳宮日記記
寛文九年
七月

朔日

御刀 三枝對馬守
已下刻御表 出御如例御一門方御對顔白書院 出御諸大名 御目見在所之御暇之面々

縁組被 仰付候面々

時服六 御暇
時服三 銀馬代 初見
市正男 松平織部

南部大膳大夫娘
松平伯耆守^江
松平下野介娘
四村修理^江
秋月佐渡守娘
本堂源七郎^江
内藤若狭守娘
森川撰津守^江
嶋田出雲守娘
坂部彦八郎^江
遠藤備前守娘
蒔田久太郎^江
大森信濃守娘
村越権三郎^江
天野弥五右衛門娘
大関勘右衛門^江
天野甚左衛門娘
新庄千助^江
松平主水妹
伊達下野^江

右之通老中被 仰渡之

右煩^二付無登 城

酒井河内守
松平民部少

右忌御免登 城

御目見 紀伊殿使者
天方四郎三郎
右之使者御目見是 去頃巢鷹被遣之御礼也
御勝手方より 岡部左近

右宇治^リ依婦參御目見

一 入御之刻黒書院東之廊下^二御茶道頭宗且組頭立甫御目見是自宇治依婦參也
一 小出信濃守事北野社修復奉行被 仰付之依^而彼家来兩人^一黒田権右衛門時服二充被下之但馬守傳之席楡間^一南部又在衛門時服二充被下之但馬守傳之席楡間
一 當地愛宕社去年炎上付^而為御造營料金三千兩圓福寺^江被下之旨寺社奉行^江老中傳之

牛込下屋敷之内
神田
同
赤坂築地
筋違橋之近所
本庄三目之橋之内
元葉師堂
本庄徳右衛門町

酒井雅楽頭
山田平右衛門
塚原三左衛門
米倉左大夫
小林七兵衛
依田友之助
嶋田七郎兵衛
秋浦源右衛門
山本友仙

右相對次第屋敷替可仕旨老中被 仰渡之

右^香芝之拝領屋敷上^今新堀之抱屋敷被下之

右^香数年麻布之抱屋敷被下之也

一 土御門福寿丸名越之御被具調進之付^而右之使者御暇白銀五枚被下之
二日
一 増上寺方丈依病氣為 上使御使役^{久保平左衛門}被差遣之

三日

伏見奉行 御脚
水野石見守跡次千石加増
荒井爾所御番
本多成八郎跡
書院番頭
仙石因幡守
書院番与頭
中根平十郎

右之通於 御座之間被 仰付之

奥女院夕七夕御祝儀物雅來頭披露

仙台御目付

渡辺筑後守

森川助右衛門

久留米

前田半右衛門

加藤源左衛門

阿部四郎五郎

大坂御目付

大坂為御目付渡辺吉左衛門被差遣之處煩^二付四郎五郎被仰付

右之面々為御目付代り被遣間支度可仕旨老中被仰渡之

未下刻西丸^江 渡御御供^ハ

申上刻

永井伊賀守

板倉筑後守

松平因幡守

此外御近習之面々於山里御馬 上覽御膳被召上酉上刻 還御

一紀伊殿使者^{天方四郎三郎} 御暇時服^二被下之

一細川越中守^江為上使千本兵左衛門被遣之是越中守候病氣也

四日 陰已后刻^三晴

於評定所式日寄合久世大和守出座

御膳奉行

秋浦彌一郎

右之通被 仰付旨老中被傳是^者 松平市左衛門跡役也

及暮於御座間舞被仰付之

大職冠

幸若彌次郎

同 次郎右衛門

同 猪右衛門

同 治兵衛

右被 仰付候^而猪右衛門^江時服三次兵衛^江時服式被下之是^者初

而舞被 仰付候^二依^而也

昨夜於両国橋御徒本多平右衛門組伊奈十郎右衛門^并小者老人令

口論當座^二式人共死^ス 相手^ハ両国橋之辻之者當座^二式人死^ス

手負老人在之由也

一木屋常と小嶋甚吉御暇時ふく式銀拾枚被下之

五日

開宿城久世大和守祥順^二付引渡

蒔田八郎左衛門 伊東甚之丞

右人馬之御朱印被下明後日發足

六日

松平下總守娘

和泉守惣頭

松平宮内^江

一七夕之御祝儀如例年黄金白銀等被献之

七日

御刀 松平内記

辰下刻黒書院 出御上段御着座御長袴 両典 御對顔終^而

両家老罷出一同御目見

白書院

尾張黃門

水戸相公

尾張羽林

水戸次将

井伊掃部頭

保科筑前守

松平右京大夫

松平左衛督

一久留嶋信濃守惣領可被召出之旨 上意御次^而次第御目見可仕

旨老中傳之

一孟蘭盆付^而遠山半左衛門事日光山^江可被差遣之旨老中傳之

八日

御役替被 仰付面々

御書院番頭 仙石因幡守跡

御小性組番頭 松平縫殿頭跡

御書院番与頭 中根平十郎跡

御書院番与頭 水野主膳跡

御書院番与頭 水野主膳跡

御書院番与頭 水野主膳跡

御書院番与頭 水野主膳跡

御書院番与頭 水野主膳跡

御書院番与頭 水野主膳跡

御書院番与頭 水野主膳跡

御書院番与頭 水野主膳跡

御書院番与頭 水野主膳跡

御書院番与頭 水野主膳跡

九日

久世大和守家來城引渡候參

開宿掃

蒔田八郎右衛門

伊東甚之丞

久保平左衛門

成御供揃八ツ半時

一明日西丸被為 於御座間遠山半左衛門御目見是孟蘭盆^二付^而日光^江被差遣候也

退去之後人馬之御朱印被下

十日

一跡目被 仰付候面々

五千石

五千石

五千石

五千石

五千石

五千石

五千石

五千石

五千石

五千石

五千石

五千石

五千石

五千石

五千石

五千石

五千石

五千石

五千石

五千石

五千石

五千石

五千石

五千石

五千石

五千石

五千石

五千石

五千石

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

久保平左衛門

箱肴 湯治掃御目見 稻葉右京亮

嫁取御礼

時服六 松平下総守

同 四 松平和泉守

時服式 市岡理右衛門

羽織 佐野平兵衛

同 猪狩十介

時服二 御鷹之雲雀

雲雀五拾 上使大久保出羽守

同 左馬頭殿

同 右馬頭殿

同 尾張中納言殿

同 田中大隅守

同 水戸宰相殿

同 上使松平監物

一長州安吉御脇指代百五拾貫 伊沢三得

一使衣寄書 冷泉為相筆 同人

右之通三得隱居^二付進上之

一琉球王逝去^二付^一而如先例相續之儀從松平大隅守可申付哉之

趣老中迄大隅守何之達御間可任舊例之旨也

一嶋津飛驒守老母雖令當地居住向後因許^二引越度之趣

是又大隅守老中迄所之可為心次第旨被 仰出之

十二日 評定所式日寄合稻葉美濃守出座也

御書院番頭 松平縫殿頭

御小姓組番頭 水野主膳

御書院番頭 前田帶刀

松平半左衛門

右之組中扣殿中御引渡在之

九條右大臣內室當月七日卒去松平越後守姬也

一左馬頭殿右馬頭殿^{ヨリ}為生見玉之御祝儀黃金二枚御樽肴

如例年被獻之

一尾張中納言殿水戸宰相殿左馬頭殿右馬頭殿登 當是昨日

以上使御鷹之雲雀被造之御礼也

一御鷹之雲雀五十充高田御方千代姫君御方本理院御方^江被造之

十三日

配当米御扶持被下之 土佐守跡式 二万二千石

十石御加増被下 春藤權七郎

拾五石御加増 佐々井忠治郎

新規五人扶持 松井彌左衛門

右之通但馬守被 仰渡依之宝生大夫被 為召之右之旨被傳之

十四日 朽木隼人正

右此度同姓伊与守所替付^一而只今迄取來知行所土屋但馬

守被遣候^二付^一上総之内^二而替被下之旨老中被^三仰渡之

一於御座間老中縮拜領之 奉職之付也

一時服三^{種二} 酒井雅業頭 一同斷 阿部豊後守

一同二^{種一} 稻葉美濃守 一同 久世大和守 一同斷 土屋但馬守

十五日 久世大和守

一孟蘭盆^二付上野増上寺 銀子時服被遣之

一上野御宮御佛殿宝樹院殿為御名代但馬守參詣也

増上寺御佛殿為御名代美濃守參拜也

銀三百枚時服十 増上寺方丈 十枚時服二 薰藝 同村貞

時服二十 日光御門跡 三凌雲院 檀那院 二圓覚院 住心院

一久世大和守昨日閑宿^江御暇今日令充足 當年始^二被下之

十六日 北條右近大夫

十七日 紅葉山御宮為御名代美濃守參拜也

於麻布 下屋敷被下之

西上刻西丸 渡御花火色々上覽戌下刻 還御

十八日 一久世大和守自關東御使者一荷^二進上之

十九日

土佐守跡式 二万二千石 土佐守惣領

戸川玄蕃 同人次男

同 三郎二郎

右之通分被下 隱居 松平隼人正

跡式 松平八十郎^江

式千五百石 永井彌右衛門

三千五百三十石余内 永井傳八郎

式千三十石余 永井傳八郎

五百石 同 平八郎

千石 山岡十兵衛

十兵衛隱居料亦五兵衛取來三百俵被下

右之通分被下傳八郎取來三百俵弥右衛門隱居料^二被下

三百俵 諸星内蔵助

三百俵 三輪太郎右衛門

右両人大御番岡部丹後守組^江御番入被 仰付

小堀備中守娘

水野八郎左衛門

右之通縁組被仰付候

昨亥下刻有馬中務少輔上屋敷出火家屋悉焼失

御鷹之雲雀五十 尾張中將殿 同水野主膳

同 三十 松平越後守 松平加賀守 松平新太郎

同 三十 松平大隅守 松平相模守 松平安藝守

同 三十 藤堂大学頭 松平讃岐守 松平龜千代

御使番持參之 井伊掃部頭

同 三十 保科肥後守

廿日 辰下刻紅葉山御佛參御長袴

尾水両公陪拜 御先立 掃部頭 讃岐守 雅楽頭 豊後守

御刀 大久保出羽守 御履 松平紀伊守

土井能登守 永井伊賀守 松平民部少輔 松平因幡守御供

還御以後兩典殿參詣

遠山半左衛門自日光掃參於御座間 御目見

廿一日

廿一日

內藏助為進物城州国行御刀
代金十枚進上之

松平越前守家来
內藏介子

一 城州国行御刀代金十枚右 內藏介遺物右幼少^二付以名代進

上之於檜之間老中出座奏者番請取納之

一 未后刻西丸^江渡御御供は

永井伊賀守

板倉佐渡守

松平因幡守

此外御近習之面々於山里御馬上覽御膳被召上 申刻

還御

一 至閑宿久世大和守所^江以宿次自老中奉書遣之是無為仕置等申

付候哉御尋被仰也

廿二日

於評定所式日寄合土屋但馬守出座也

御鷹之雲雀三十 松平左京大夫 松平棋津守

松平出雲守 松平大膳大夫 森内記

松平刑部大輔 松平播磨守 松平但馬守

宗 對馬守 伊達遠江守 松平大和守

本多内記 蜂須賀千松 保科筑前守

保科右京大夫

廿三日

右典厩紀伊黃門内室^江 御鷹之雲雀被遣之

御鷹奉行 御小姓組 野々山弥兵衛

老林^二付 杉浦弥市郎 駿府御城代 松平丹後守

一 増上寺方丈^江為 上使以 小笠原山城守 隱居如願被 仰付之

是方丈近年御病氣隱居願之義連々老中迄被訴之付^而也

御鷹之雲雀三十充 松平新太郎^{母儀} 松平安藝守 內儀

松平對馬守 立花江雪 松平土佐守

佐竹右京大夫 松平信濃守 有馬中務大輔

松平飛騨守 毛利甲斐守 松平兵部大輔

黒田万千代

廿四日

辰下刻紅葉山御佛參 御長袴 水尾二公陪拜

六月十二日^二廿二日迄加賀能登越中大雨^二四万八千六百石水

損依之男女十人余溺死家數九十三軒押流之旨注進

戌即刻二丸 渡御御花火上覽畢^而亥后刻 還御也

一 掃部頭藏岐守雅家頭豊後守美濃守但馬守御先^江參上

御佛殿^江傳通院參上御堂前之御作法如何例

御刀 松平内記 御履 松平紀伊守

一 土井能登守永井伊賀守板倉筑後守松平因幡守御供

一 還御後兩典厩參詣

一 水戸宰相尾張中持殿陪拜

廿五日

御後頭 辨原大膳祖与頭

愛久保長右衛門跡 講訪文九郎

御馬買可被仰付旨

一 松平對馬守病氣^二付 上使安藤對馬守

廿六日

已上刻黒書院 出御參勤御礼御刀 松平紀伊守

金馬代 奏者番 青山大膳亮

金十枚 御日 土佐守子 戸川玄蕃

時服五 御礼 土佐守次男 戸川三郎次郎

金一枚 知行分 御礼 溝口左近

二枚 御日 忠右衛門子 久貝弥右衛門

同 赤右衛門子 永井傳八郎

同 仙臺御目付 渡邊筑後守

右御目見終^而 金三枚^二ツ 御暇 森川助右衛門

金三枚^二ツ 御暇 前田半右衛門

金二枚 駿府御目付 加藤源太左衛門

時服式羽折 御暇 久保平左衛門

銀馬代 初見 久保權之助

一 戸川土佐守為 遺物御腰物金景代金十枚捧之

上使御使番を以 一 雲雀三十 細川越中守 松平大藏大輔

同 二十

酒井左衛門尉 松平隱岐守 內藤帶刀

松平相模守 戸田采女正 小笠原遠江守

松平和泉守 奥平大膳充^充 牧野飛騨守

岡田内膳亮 本多越前守

一 松平主殿頭御暇^二付時服十被下之真田伊賀守同断^二付

同四羽折被下之

一 朽木伊与守福智山城へ取替御暇^二付時服五羽折被下之

廿七日

駿府御城代 御加増二千石 大御番頭

松平丹後守跡 合五千石 松平右近太夫

土浦引渡 稲葉清左衛門

土浦中説 安藤治右衛門

雲雀被下廿充 上使御使番

鳥居兵部少輔 本多中務大輔 本多飛騨守

小笠原土佐守 諏訪因幡守 戸田伊賀守

土岐山城守 西丸隠岐守

廿八日

如例月御一門方其外諸大名 御目見有之

氣分能今日^二登城 酒井河内守

孫差合^二付 登城無之 松平新太郎

土浦婦説 稲葉清左衛門 阿部豊後守

雲雀三十 酒井雅樂頭 土屋但馬守

同 式十 稲葉美濃守

廿九日

増上寺隱居^{智哲}依所芳為 上使松平民部少輔被遣之為

御礼役僧薰閣登 城

一 伽羅九拾六匁^江遣之奉筑後守

晦日

大和守自せき宿城昨日掃參登 城 久世大和守

金馬代 城地拝領御加増 同断 土屋但馬守

時服五 御礼 雲雀二十充 久世大和守 松平美作守伴領之

一 御臺様^江自大和守但馬守白銀十枚^并御香二種宛進上之

女中 銀三枚二枚宛送之

柳營日記記

寛文九年

八月

朔日

辰下刻黒書院 出御上段着御御長袴 御刀 松平内記

太刀目録

白書院

館林相公

太刀目録

尾張黄門

〃

水戸相公

太刀目録

尾張羽林

〃

水戸次將

紀伊黄門名代
水野對馬守

大廣間

老中

高家

詰衆

奏者番

寺社奉行

同 惣領

諸番頭

諸奉行

大廣門

松平讃岐守

井伊掃部頭

保科筑前守

松平右京大夫

松平左兵衛督

松平越後守

松平加賀守

松平新太郎

松平大隅守

松平相模守

松原右京大夫
(目次記も松原)

松平安藝守

松平摂津守

松平出雲守

松平大膳大夫

森 内記

松平刑部大輔

松平播磨守

松平但馬守

宗 對馬守

伊達遠江守

松平出羽守

松平大和守

本多内記

佐竹右京大夫

藤堂和泉守

松平飛騨守

毛利甲斐守

松平兵部大輔

松平信濃守

有馬中務大輔

松平大藏少輔

蜂須賀千松

黒田万千代

戸田采女正

小笠原近江守

内藤帯刀

松平若狭守

右老人ツ 太刀目録持参出座御禮次に

松平和泉守

右老万石以上之面々同惣領并 無官之高家迄二人三人四人

五人ツ 太刀目録持参出座御礼終而 間御襖障子明之

立御御次之間伺公之面々太刀目録前置一同 御目見

入御之節於大廊下

若年寄衆

此外御近習之面々三千石以上之面々太刀目録置之一同

御通懸ケ 御目見

大廣間ニ而 在国在所 在之大名在江戸大名煩并 幼少之面々

以名代太刀目録進上之面々

雅楽頭 豊後守

北 美濃守 南 但馬守

安藤對馬守 小笠原山城守

松平越前守

佐竹修理大夫

松平薩摩守

藤堂大学頭

松平龜千代

松平下野守

松平下野守

細川越中守

松平伊賀守

松平伯耆守

松平淡路守

松平丹後守

丹羽左京大夫

織田山城守

松平修理大夫

松平彈正少

板倉内膳正

牧野佐渡守

松平下總守

松平土佐守

上杵喜平次

森 美濃守

織田内記

松平中務大輔

立花左近將監

酒井左衛門尉

大久保加賀守

酒井修理大夫

右之外名代使者八十九人者 式人ツ 罷出老中出座奏者

番太刀目録請取納之

二日

右殿中江 被招増上寺方丈後住被 仰付之 新田大光院歴天

三日

今日御誕生日ニ 付殿中伺公之面々於所々御祝熨斗并 御酒

今日御誕生日ニ 付殿中伺公之面々於所々御祝熨斗并 御酒

被下之

已下刻黒書院 出御半年代參勤御礼

四日

於評定所式日寄合稲葉美濃守出座

土井能登守
永井伊賀守

右於御前御鷹之雲雀廿充拝領之也

一自京都飛脚来多奈井小路出座候^御姫宮御病氣無御

快氣去月廿八日逝去之由注進

五日

一 雅樂頭從弟差合^付登^二城無之是松平對馬守今曉逝去也松平美濃守甥也

分部隼人正

右^著領知水損^二付米拝借被^一仰付候老中傳達之員教之儀重^而可被仰出之由也

但八木三千石拝借也十ヶ年^二可為上納旨也

御鷹之雲雀廿充 中奥御小姓持出之老中傳上意

土井大炊頭 水野監物 安藤對馬守 青山大膳亮

井上相模守 小笠原山城守 土井兵庫頭 松平肥前守

増山兵部少輔 秋元撰津守 加々爪甲斐守

六日

松平對馬守死去^二付息土佐守^二為上使大和守被遣之

一紀伊中納言殿^江八朔之奉書御城御機嫌伺之家来美濃守渡遣之

一保科肥後守^{ヨリ}初齋献之

七日

(この部台本也)
忌御免 登城

酒井雅樂頭

一 水戸相公松平龜千代より初鮭老尺ツッ進上之

禁裏^江以宿繼初鮭進上之

一雅樂頭忌服御免登 城

一松平市右衛門島山牛之助鈴木八右衛門御暇付^{時服}二充被下之

箱肴

堀田備中守

那須遠江守

土井信濃守

土井周防守

山口修理亮

稲葉丹後守

内田出羽守

一自京都次飛脚到来八宮^御去朔日逝去注進

同 御暇

松平和泉守

土井大炊頭

安藤對馬守

松平備前守

秋元撰津守

保科筑前守

土屋民部少

松平山城守

堀 飛驒守

西郷若狹守

本多彈正忠^初

一松平薩摩守掃部御礼使者諏訪八郎右衛門謁美濃守給子廿卷老荷

二種献之

一御座間^江保科筑前守被召出之在所^江御暇被遣之旨被仰出

御馬老足御鷹^一居雁拾被下旨上意雅樂頭豊後守 老中

及御挨拶

一御前^江酒井河内守被 召出之御鷹之雲雀二十被下

一午刻黒書院出御 上壇御着座

御刀 能勢撰津守 戸川玄蕃

時服^二 是^香婚札相濟御礼也是^ハ溝口信濃守娘被嫁之

役所 御暇 水野伊豫守 銀三十枚時服三

繼目御礼 太刀目録金二枚 本多彦十郎

同 一東一卷 盛芳院 醫師

時服四 本多彈正忠

一柳原越中守久能^江御暇仍時服^二羽織三捧之是雖為

在府去頃在所御暇付^無無登 城

一土屋民部少輔依病氣無登 城為名代同姓平八郎

罷出在所御暇被下旨傳之

一禁裏初鮭御進献之

金二枚繼目 本多彦十郎

九日

久世大和守無登 城次男依病氣

紅葉山 火消

未下刻西丸 渡御御供^者

土井能登守

板倉筑後守

松平周防守

於山里御馬上覽西下刻 還御也

一松平對馬守卒去^二依以堀田備中守香銀三百枚土佐守^二被下之

十日

甲府相公

右以御内證御願之通鷹場^江御暇被遣旨家老太田志岐

守招之被仰渡之

館林相公

右^著小石川下屋敷際^二百姓地只今迄御借置被成候處御願

之通被進旨家老秋浦大隅守^江被仰渡之

一松平薩摩守使者諏訪八郎右衛門御暇時服^二被下之

一久世大和守^江上使大久保出羽守服忌中也

十一日 自昨夜雨降 未后刻甚地震

稲葉美濃守

右孫之差合登 城無之是次男出羽守息女也

一就地震日光山^江次飛脚被遣之美濃守大和守依差合

但馬守一判^二差越之

一南部大膳大夫伊達兵部少輔田村右京亮領内之初鮭

進上之

十二日

於評定所式日寄合但馬守出座也

忌御免
登城
稻葉美濃守

十三日

女御入内^二付^一 閑白殿迄白銀貳百貫被遣之

一 法皇本院御所^二初鞋被遣之

十四日

井上相模守

右被為召惣領大學事向後於芙蓉間御目見可申上旨老
中傳之

一 久世大和守忌御免^二付^一登城

一 松平主稅事向後御表向御目見可仕之由

十五日

如例月御礼有之

白書院

箱肴 半年代參府

箱肴

金馬代 半年代參府

征矢百筋 參府

御役替被 仰付候面々

大御番頭 松平左近大夫跡

御書院番頭 田中大隅守跡

御小姓組番頭 大久保山城守跡

御小姓組与頭 酒井采女跡

右於 御前御直^二被仰之

土屋但馬守

一 申下刻二丸^二渡御亥下刻 還御

分部筆人正

右米主千右排借被仰付来年より十ヶ年に上納可仕旨

被 仰出之

一 久世大和守土屋但馬守領知之御朱印各於御座間頂戴之

太刀目錄

右依參府御目見

一來月遷宮付^而勢州^江為御名代吉良上野介用意

一 土屋但馬守土浦^江御暇

十六日

十七日

紅葉山 御宮為御名代阿部豊後守參拜也

金三枚

金貳枚

時服貳

時服貳

御代官

御代官

御代官

御代官

御代官

御代官

御代官

御代官

御代官

御代官

御代官

御代官

御代官

御代官

御代官

御代官

御代官

御代官

御代官

御代官

御代官

御代官

御代官

御代官

御代官

御代官

御代官

御代官

山吹之間
御書院番
御暇
主馬子
水野清吉
傳八郎美子
阿倍傳左衛門
三十郎子
戸田三五郎
平右衛門子
山田平助
甚五兵衛子
正木甚之助
建部丹波守
戸田孫十郎

銀十枚
御暇
初見

銀馬代

鳥目

箱肴

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

病後

酒井七郎

御書院番

御暇

主馬子

水野清吉

傳八郎美子

阿倍傳左衛門

三十郎子

戸田三五郎

平右衛門子

山田平助

甚五兵衛子

正木甚之助

建部丹波守

戸田孫十郎

松平龜千代領内之初菱喰献上之

松平龜千代領内之初菱喰献上之

松平龜千代領内之初菱喰献上之

松平龜千代領内之初菱喰献上之

松平龜千代領内之初菱喰献上之

松平龜千代領内之初菱喰献上之

松平龜千代領内之初菱喰献上之

松平龜千代領内之初菱喰献上之

松平龜千代領内之初菱喰献上之

松平龜千代領内之初菱喰献上之

松平龜千代領内之初菱喰献上之

松平龜千代領内之初菱喰献上之

松平龜千代領内之初菱喰献上之

松平龜千代領内之初菱喰献上之

松平龜千代領内之初菱喰献上之

松平龜千代領内之初菱喰献上之

松平龜千代領内之初菱喰献上之

松平龜千代領内之初菱喰献上之

松平龜千代領内之初菱喰献上之

松平龜千代領内之初菱喰献上之

松平龜千代領内之初菱喰献上之

松平龜千代領内之初菱喰献上之

松平龜千代領内之初菱喰献上之

松平龜千代領内之初菱喰献上之

廣場掃

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

左典廐

出御

御刀

本多土佐守

今日御能被仰付候^二付^一向典廐其外出仕之面々登

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

城辰下刻

出御

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

出御

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

出御

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御禮

御目見則大廣間^江出御下段御座御能初^ル

御能組

白鬚 寶生 権七郎 三右衛門 又右衛門
 頼政 八之丞 新之丞 源十郎 八郎右衛門
 井筒 宝生 権七郎 庄右衛門 清左衛門
 土蜘蛛 八之丞 同人 新右衛門 忠次郎
 三井寺 宝生 彦太郎 源六郎 安兵衛
 大會 八之丞 新之丞 三右衛門 忠次郎
 小鍛冶 平右衛門 彦太郎 新右衛門 又右衛門
 連哥毘沙門 弥右衛門 入間川 傳右衛門
 釣狐 弥右衛門 狐塚 弥右衛門
 にやく市 傳右衛門

右御能三番過御中入御饗應御黒書院西湖之間^二 御向殿
 柳之間^二 高家衆詰衆同惣領奏者番御留守居諸番頭布
 衣以上面々新御番所^二 老中松平美濃守若年寄御右
 筆部屋後^二 御小姓御小納戸中奥衆醫師小十人御番所檜之
 間^二 惣御振舞右所^二 御振舞過^而 大廣間^江 出御御能初^ル
 刻御能終^而 御向殿御對顔過^而 間之御襖障子明之次之間伺
 公之面々一同^二 御目見 入御

廿四日

増上寺御佛殿為御名代稻葉美濃守参拝也

高木主水正

右^者從二條此頃雖為當着病氣^二 付^而 以使者御腰物筒式
 銀馬代進上之

禁中方^江 初蠶以宿繼進之是松平龜千代より今朝上^ル
 仙洞御所本院御所^江 菱喰一羽^{ツツ} 以宿繼被遣之

一 法皇御方本院御所^江 菱喰被遣之
 一 丹羽左京大夫就在所到着以使者蠟燭三百挺二種一荷
 進上之美濃守出席

廿六日

午上刻黒書院 出御大坂加番掃御礼

大刀銀馬代 大坂加番掃
 根欠二百筋 銀馬代
 切付三懸 大坂加番掃
 松平遠江守
 井上筑後守
 遠藤備前守
 溝口土佐守
 阿部作十郎
 戸田備後守
 本田伯耆守

金馬代 初見
 時服五 大坂御番
 兩鞍覆五懸 備
 銀馬代 切付五懸
 時服三羽織 中根平十郎
 金二枚時服二 五味藤九郎
 羽織 長谷川久兵衛
 時服二 羽折
 右御暇付^而 時服等被下之
 押置二掛 山田清左衛門

右參府御目見
 土屋相模守御目見但馬守無事候哉御尋
 山吹之間
 大坂在番掃大御番

御機一荷 保科筑前守使者
 御者二種 御者二種
 伊北布五十疋 柳瀬三左衛門
 右之使者御目見酒井河内守披露之是在所到着之御礼也

廿七日

保科丹羽使者^江 時服二无被下之

廿八日

辰下刻黒書院 出御御一門方御對顔白書院出御如例月

諸大名御目見^{御刀 神尾掃磨守}
 時服二十 御暇
 一束一本 參上
 銀百枚 御暇
 時服五 御暇

酒井左衛門尉
 品川東海寺輪番代
 鐵舟
 同所輪番代
 賓堂
 大御番頭
 高木主水正

一 豊前國中津小笠原内匠頭領分當月八日九日頃より打續洪水
 十二日暮時より甚風吹水増り川除二十間余切町屋六十軒余
 出行足輕家六七軒流男女十三人流死内老人^ハ 足輕格式人^ハ
 町人之由右之通注進之

未后刻西丸^江 渡御御供^者

土井能登守
 板倉筑後守
 松平民部少
 酒井左衛門尉
 御馬被下之
 小普請
 澁川長門守支配
 保津半太夫
 (保津半太夫)
 久世大和守

廿九日

今日登 城無之

一新院女院御所^江 初菱喰御進献之

其外御近習之面々於山里御馬上覽御膳被召上申上刻

還御

奥堀田對馬守組町野屯岐守組
 御番入

久世大和守

柳營日次記

寛文九年

九月

朔日

御座之間

箱肴 土浦婦

土屋但馬守

辰下刻黒書院 出御如例月御一門方

御對顔尾張黃門

少々腹痛氣付登 城無之

白書院

金馬代

參勤御礼

松平中務大輔

御臺様 銀五枚

二日

三日

登城

久世大和守

〇〇

四日

於評定所式日寄合土屋但馬守出座也

三日

〇〇一法皇本院御所^江初齋御進献

四日

奥一女院御所^江重陽御祝義之御使^{給水三左衛門}登城御進物納之

三日

幸阿弥与兵衛五十嵐太兵衛御暇^黄金老杖宛被下之

右三條三日なり

五日

老万石以上之面々より重陽御小袖如例進上之

御臺様^江五万石以上より為御小袖代白銀進上之

肥後国熊本細川越中守領知去^ル十一日十二日風雨甚破損水損

之覚

堀所五万六千七百廿間切候^ニ付其節之田畠水下損毛如何程御座候哉未知不申永荒所之由申候

一 磧所々六百十ヶ所破損仕候一堤四十式ヶ所切よし

一 川筋之石垣数ヶ所^并水際共破損仕候

一 橋床之石垣所々破損仕候

一 家千四百三十式軒流切申船十六艘流申候

一 死人十一人御座候馬式疋死

一 松平主殿頭領分嶋原去月十一日十二日甚風雨^ニ付家数九百廿

三軒本丸二丸三丸破損之由昨日注進之

六日

三万六千石

長門守義子

九鬼千之助

老万石

肥前守実子

堀 松之助

右跡式無相違被

仰付於御白書院老中被 仰渡之

大坂御目付代 阿部四郎五郎 徳永平八郎

同 當月十七日日光山御宮^江為御名代上秋伊勢守同御祭礼^ニ

付^而土井周防守可被遣之旨被 仰付之

一 松平新太郎母儀^江例年之通八木被下之

七日

右於 御座間御奏者番被 仰付之

後住被 仰付面々

新田 大光院^江 飯沼 弘経寺万無

弘経寺^江 善導寺檀通

善導寺^江 増上寺一箇 玄意

日光御門跡登山^ニ付御醫師道有被遣候^ニ付人馬御朱印被下候

上野 明 静 院

右^ハ御門跡御願^ニ付院家被 仰付旨役僧圓覚院老中被

傳之 松平新太郎

右登 城謁老中退去也母儀如例年御合力米被下置に

依^而也 一 蒔繪師梅原七右衛門御暇時服^ニ被下

一 日光登山^ニ付上使畠山下總守を以御菓子被遣之

八日

戸田備後守

本多伯耆守

右両組中招殿中於御白書院老中出座在番中善悪御改

有之

板倉筑後守

松平民部少

松平因幡守

右三人下屋敷拜領所不知

一 如例年東叡山被献御礼^後

九日

巳后刻黒書院 出御^{御長持}左典廐右両典御對顔過

白書院 出御^{御刀 大久保出羽守}

兩典之家司御礼 嶋田淡路守室賀下總守大久保和泉守

尾張黃門

水戸相公

尾張羽林

水戸次將

右御對顔畢^而

松平隱岐守

井伊掃部頭

松平右京大夫

松平左兵衛督

右老人^{ツツ}出座 御目見次^ニ御礼

山王 最教院

同所神王 日吉大膳

右御礼終^而大廣間 出御之砌於大廊下

高家衆

詰衆

同惣領

諸番頭

諸奉行

諸物頭

諸役人

右御通懸一同 御目見則大廣間 出御中段着御

落縁^ニ猿樂居事終^ニ 入御也

一入御之節白書院タマリ^ニ伏見勘七郎祇候御目見

一白書院御次間較工并関太郎次郎較前^ニ置之平伏奉拜

台顔

一黒書院御次東之間^ニ女院御所ヨリ重陽之御祝儀之御使

鈴木參左衛門祇候御目見 但三左衛門儀初^ニ御目見仕候^ニ

付^ニ捧進物也

十日

今日も登城

久世大和守

十一日

大御番頭

高木主水正跡

御書院番頭

戸田相模守跡

御小姓組番頭

柴田七九郎跡

戸田相模守

植村志摩守

諏訪兵部

右之通於 御座之間御直に被

仰付之

柴田七九郎

是^香御小姓組番頭被仰付植村志摩守跡

一知恩院御門跡^江為 上使以天津兵部大輔水砂糖一筥被遣之

一新院御所女院御所^江初齋被進之

一御代官官崎清大夫同太郎左衛門役所御暇被下

十二日

於評定所式日寄合稲葉美濃守出座也

肥前国唐津八月十一日十二日大風雨^ニ付郷中破損田島損毛之覚

在々倒家式千五百七拾軒内五百九拾五軒半倒

堤大小土手共切破損式千百十間五百廿三間本堤切口^并

破損共千三百九十六間小堤切口百五十六間

田島老万三千石余損毛内三千石^ハ畑方

松平丹後守領分

高拾貳万五千石余損毛湖土手^并堤所々切候間數三千七百

三十間余潰家八千五百拾七軒

溺死人七人

有馬中務領分

一 高八万八千四百石余水入堤六千六百三十間余在家式千

六百六軒倒家 溺死男女七人同牛馬三拾貳疋

一 城中侍屋敷少々破損有之

一 伊勢遷宮付^ニ以吉良上野介被遣之所謂 内宮^江御太刀一腰

代金三枚 御馬三疋 黄金十枚 外宮 御太刀一腰 代金貳拾五枚

御馬三疋 黄金十枚

一 上野介義 御前被召出之退去以後金十枚時服三羽織被下之

日光御名代御祭礼^ニ付

一 上秋伊勢守土井周防守義是又御座間^江被召出之

一 保科肥後守^江以内藤式部少輔御菓子被下之

十三日

弓矢陣

御軍奉行

大田加兵衛跡

御定儀番頭

加藤源四郎跡

御書物奉行

関平左衛門跡

大御番中銀日向守組

高木茂右衛門

大御番松平豊前守組

佐野九右衛門

新御番駒井右京組

服部甚大夫

右之通被 仰付旨老中被 仰渡

一 女院御所重陽之御使鈴木三左衛門御暇被下旨但馬守傳

之銀五枚拝領

十四日

戸田相模守

植田志摩守

柴田七九郎

諏訪兵部

阿部豊後守

右於殿中御引渡有之

右少々頭痛氣^ニ付為養生今日登 城無之

十五日

如例月御一門方其外御礼有之

御刀 能勢抵津守

白書院

銀馬代 參勤御礼 龜井能登守

白紗綾廿卷 銀馬代 松平將監

才ためん三間 銀馬代 松平佐渡守

時服二 銀馬代 〃

右老人^{ツッ} 出座御目見畢^ニ

松平遠江守

右始老万石以上之面々同惣領^并無官之高家迄或二人三人

或五六人出座也御目見次之間御襖障子明之下段立御御

次之間御旗本之面々寄合醫師等並居一同 御目見御向

太刀銀馬代 參勤
熊泥障三掛
太刀銀馬代
小袖三

新庄隱岐守
本多隱岐守
毛利刑部少輔
在所
松平兵部太輔

後住御礼
朝田
大光院

東卷
飯沼
弘経寺

東本
益林
善導寺

院家被仰付御礼
東取明静院事
觀理院

輪番御礼
高野宇治
蓮花院

東卷
同行人
龍生院

輪番代御暇
同 学侶
积進門院

小袖四
同行人
正倉院

同 二
蜂須賀千松家老
加嶋主水

太刀目録
是家督御礼之節因元在之今度參上千松願^二付^而也

箱肴
大岡二郎兵衛
本間十左衛門

火繩十筋 御目見
鹿垣長右衛門
松村弥三郎

參上御礼
松村弥三郎

十六日
井伊掃部頭
松平讚岐守

酒井雅楽頭
稲葉美濃守
土屋但馬守

水戸宰相尾張中将豫參
老中不殘被罷越御供^者

土井能登守
永井伊賀守
板倉筑後守
松平民部少

石川美作守
松平紀伊守

此外御近習之面々
御刀
御香

阿部豊後守氣色も大方能^二付可有登
城之段達上聞候処

後々引込養生可仕旨上意^二付無登^一城也
一長谷小池坊一蔭梅心院事當中招之筑波山知足院後住被仰付之

十八日
未下刻西丸^江渡御御供^ハ

土井能登守
松平民部少
松平因幡守

御近習之面々
西丸^二面^一御膳被召上於山里御馬^{補村志保守組}上覽未下刻^二還御^一

一松平伊豫守御暇被下之備前岡山到着付^而為御礼以使者羅勢多
一箱^并御樽肴進上之
一佐野九右衛門御宝威之番頭依被仰付之組中引渡
一酒井河内守湯治御暇被下

十九日
阿部豊後守

病氣全快^二付今日より登^一城之由也

廿日
御佛參御長袴御先^江

井伊掃部頭
松平讚岐守

酒井雅楽頭
稲葉美濃守
土屋但馬守

老中不殘

水戸殿尾張中将豫參
御供^二は

土井能登守
永井伊賀守
板倉筑後守
松平民部少

御近習之面々
御刀
御香

御三人方^ハ御參上^一還御以後為伺御機嫌使者上り謁老中
退去也

阿部豊後守

右紅葉山御先^江還御已後直に帰宅登城也
一上秋伊勢守土井周防守從日光山掃參於御座間 御目見

廿一日
遠山半左衛門

右久世大和守^江為上使被遣是^者氣色不快^二付^而御尋也
一保科肥後守登城於御座間 御目見
一加藤權左衛門諏訪部文九郎南部^江御馬求^二被遣之付^而今日
御暇黃金三枚時服^二充再人馬之^一御朱印等被下
奥^一御臺様^ハ伽羅一木式百六十日被遣之

廿二日
於評定所式日寄合土屋但馬守出座也

廿三日
一自京都次飛脚到来去十六日 法皇 本院 女院御所岩倉^江
御幸彼地之松茸二籠 女院御所^{ヨリ}被進之
一伊勢春木大夫山本大夫使者御暇時服^二充被下之^一
一禁裏^江御鷹之初鶴御進獻之

廿四日
井伊掃部頭
酒井雅楽頭

辰下刻増上寺御佛殿御參詣御先^江

老中不殘

阿部豊後守
土屋但馬守
土井能登守
松平民部少輔
松平因幡守
老中不殘
御近習之面々
松平内記
内藤上野之助

水戸相公尾張中將豫參
依病病也
時服三
金馬代
紀伊殿使者久世八兵衛被召出之御機嫌伺使者也
神尾若狹守
尾張黃門^五為上使以本多土佐守御菓子被遣之是少々
初見
撰譯守惣領
太田左近

崇源院殿へも御參詣
右御拜礼畢^而方丈^江被為入方丈^江御杯被下

入院以後初^三付
銀式百枚
時服十
奥方丈^夕杵重進上
役者薰圓
村貞

右拝領畢^而午后刻^二還御
一日門掃寺^三付御使品川式部大輔
増上寺方丈^江

廿五日
午上刻黒書院出御參勤御礼
金馬代
綿百把
熊泥障^三
銀馬代
金馬代
時服六
御刀備前長光代金十五枚
同五枚
御脇指法城寺代金七枚
堀肥前守遺物
在所^江御暇
時服四
羽折
同断
御勝手手より
福知山
引渡婦り
京都^江御暇
銀三十枚時服三
野間三竹

酒井修理大夫
酒井右京
太田式部
九鬼千之助
九鬼長門守遺物
堀 松之介
土屋相模守
青山大藏介
龜井伊豫守
神尾若狹守

廿六日
松平左近大夫
仙石因幡守
右此度御加増地^并本地之替地御書出老中被渡之
一兩典歷より鷹之鷹^二羽被献之
一紀伊中納言殿使者久世八兵衛御暇^{時服}一被下之
廿七日
松平大膳大夫内室病氣以之外^二而^三泷江長悅稟願之通被仰付旨永井伊賀守被傳御城より被遣之
一松平加賀守以使者壺切口茶^并菱喰^三二献之
一法皇^江御鷹之鶴御進献之
廿八日
已刻黒書院出御如例御一門方^二御對顔
銀馬代
和紙式箱
參勤
稻垣信濃守
青山因幡守

右^者々々御目見不申上候^二付罷下り度旨奉願依之聞十月十一月可被下旨從老中以奉書被仰遣由也
筑波知足院一東二卷牛込松源寺東本後住之御礼
覺
於諸国在々所々當酉年酒造之儀去年二月中相觸候員數之通弥可相守之若令違背多造之輩於有之後日^二相聞及候共可為曲事如去年懸穿^テ鑿酒造之米之員數書付當霜月中御勘定所迄可差出事

御領私領之内^二在之寺社領之分^八候御朱印所^三而高之外たり共酒造之儀先條之通其所之領主御代官より急度相改之右同前^二書付可差上事
煙草本田畑^二作之儀弥以為御停止之間是又可申付事^被
酉九月廿八日
右之通諸大名留守居之面々大目付申渡之
一今度蝦夷出入^二付松前兵庫^江米三千俵被為借之旨以奉書被仰達是人数指遣兵糧不自由之旨^二付也^而
一申后刻二丸^江渡御酉刻^二還御
一松平土佐守忌明之御目見
一當山二ノ宿靈山寺御札一東一卷 古筆見了菜玄右衛門八兵衛

廿九日
藤堂大學頭
右願之通隱居被仰付高三十三万三千石之内
廿七万九百石余
藤堂和泉守
同人次男
同 佐渡守
同 庄次郎
同 三千石
右之通分被下之
願之通
松平若狹守
同 駿河守
同 嶋
角左衛門
竹中彦八郎
右兩人駿府論地三ヶ所依在之為見分可被遣^之
一當年駿河在番罷有之青山丹後守組之内嶋角左衛門竹中彦八郎事彼因論所見分可仕旨被仰付之
晦日^{陰時々晴}
一京大坂長崎より次飛脚到来